



幼い子をあやすように、
絶世の美女である女王を扱う。

メロンはウリ科の植物、ということがクレオパトラメロンを手にするとよくわかる。つるんとなめらかで、鮮やかな黄色の果皮。これはやはりウリの従兄弟にちがいない。そして、古代エジプトの絶世の美女とうわさされる女王の名を冠しているだけあって、華やぎと妖しさもあわせもっている、そんなメロンである。味の特徴はどのようなところか。「果肉は白いです、ほらね（なるほど、とてもさわやかな印象だ）、ですが見た目よりずっと糖度が高いのです（ほんとうだ、なんともまろやかな甘さだ）」

説明してくれた村口静枝さんは、まるで幼い子をあやすような手つきでクレオパトラを扱うのだ。

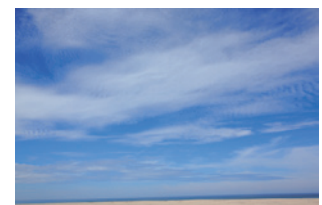
メロンづくり、すでに四十年余のベテランである。

「いえいえ、経験なんて吹けば飛ばようなものです。毎年いつもいつも新人です。緊張します」

いくつものハウスで栽培している。その規模を、すべて夫と二人だけでこなしてきた。現在でこそリタイアした夫だが、メインの仕事を抱えていたころは大半を妻ひとりでやってきた。

「育てることの楽しみ、それが苦勞を帳消しにしてくれますね」昨日より節が伸びている、葉数が増えている。と慈しんで眺めるときのよろこび。この繰り返しの四十年なのだ。

メロン農家
村口静枝



ゆ
う
ゆ
う、
は
り
ま